

教育奨励基金「学習・研究奨励金」

活動報告書

採択グループ名：ポートランドプロジェクト

代表者名：山影実咲

代表者所属：慶應義塾大学総合政策学部4年

指導教員名：井庭崇教授

学習・研究課題

ポートランドから学ぶナチュラルでローカルでクリエイティブなまちのつくり方のパターンランゲージ

学習・研究の概要

アメリカのオレゴン州に位置するポートランドは、世界的に様々な側面で「いいまち」として、まちづくりの分野で注目されている。世界中の様々な地域でポートランドをモデルとしたまちづくりが行われているが、文化的背景やリソース、国民性の違いなどにより、ただポートランドの取り組みをそのまま真似ても、その地域ならではの良さが隠れたまま、表面的な取り組みに留まるケースが多発している。そこで、ポートランドの良さを構成している要素を「ナチュラル」「ローカル」「クリエイティブ」の三つの観点で捉え、まずそれら三つのパターンがまちの中に混在している重要性を一つのパターンで、そしてそれぞれの要素をまちの中に満たすための九つのコツをパターンとして各要素ごとに抽出し、計28のパターンの形でまとめ上げた。このプロジェクトは2019年夏から始動しており、現在もお活用に向けて動いているため、今回の報告は中間報告とする。

これまでの成果報告

2019年の夏から活動を始め、アーバンデザイナーであり、ポートランド市開発局に所属されていた山崎満広さん、ポートランドでサバティカルを過ごし、幾度も渡航経験のある井庭崇教授のお話をもとに、28のパターンを抽出して行った。そして、ポートランドで自然食レストランを経営されている田村なを子さん、ポートランドを拠点に食や農業のコーディネーターをされている篠原杏子さん、オレゴン日米協会に勤務し、自ら日本とポートランドをつなぐコミュニティを立ち上げられた宮永薫さんからのインタビューを追加で行わせていただき、それぞれのパターンにさらなる肉付けを行い、始動から約一年をかけて全てのパターンの記述を一度終えた。(図1)

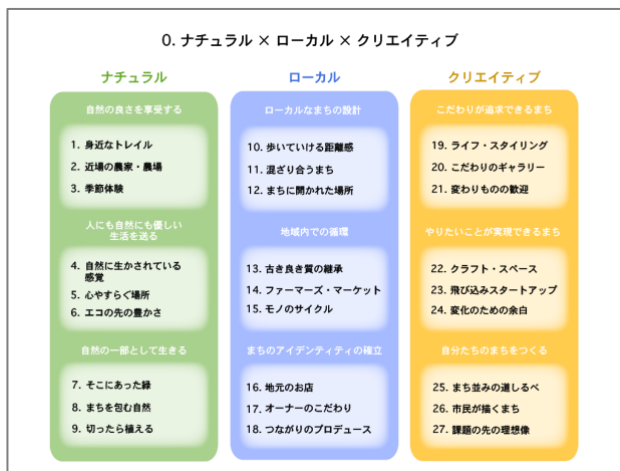


図1：全体構造

また、その後、Portland Urban Architecture Research Lab (PUARL) というパターン・ランゲージの国際学会に参加した。そこでパターンの英語化を部分的に行い、全パターンの概要の翻訳も行った。また、よりパターンの内容が一目で分かりやすくなるよう部分的にイラストをつけ、それらの発表を英語で行った。ここまでは前回の中間報告でも紹介したが、この学会での発表の後にはまず、英語化がされていない残りのパターンの英語化や、残りのイラストを描き進める作業を行なって行った。(図3)



図2：英語化し、イラスト・写真をつけたパターン

そしてその後は、既述の学会での発表後に提出できる英語論文の作成を行なって行った。上で英語化され、イラストが付けられたパターンを論文内ではいくつか紹介した。(図3)

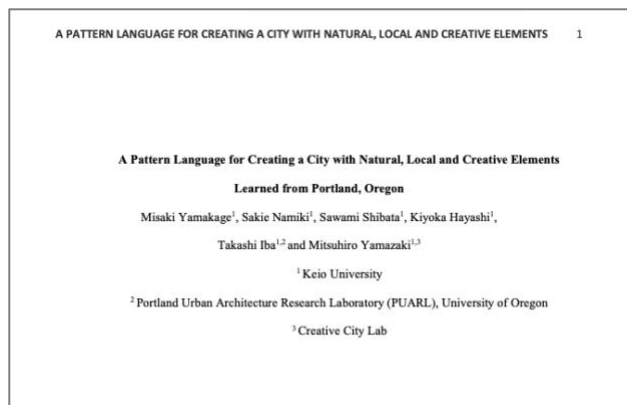


図3：PUARLにて提出した英論文

また、井庭崇教授が開講されている創造社会論という授業の第3・4回(2020年10月9日)において、本研究の代表者である私も登壇させて頂いた。(図4)井庭崇教授の他にもゲストとして、今回の研究を共に行なった山崎満広さん、R不動産で様々な都市開発をされている小泉寛明さん、そして株式会社UDSの社長を退任後、個人的にまちづくりに取り組まれている中川敬文さんが参加されており、対岸を行った。小泉さんはポートランドをモデルとした、ファーマーズマーケットなどの様々なまちづくりの取り組みが行われている神戸での開発も手掛けられており、いくつかのパターンも実際に見ていただき、それぞれのパターンに対する感想や経験談などを結び付けて語って頂いた。



図4：創造社会論での発表

また、ナチュラルとクリエイティブが溢れているまちとしてのポートランドの研究であるとして、今後「ナチュラル」に「クリエイティブ」というのは今後の井庭崇研究室における創造社会やパターンランゲージの研究において重要なコンセプトだとして、2021年開催のORFでの研究説明の動画内で本研究の紹介を行った。

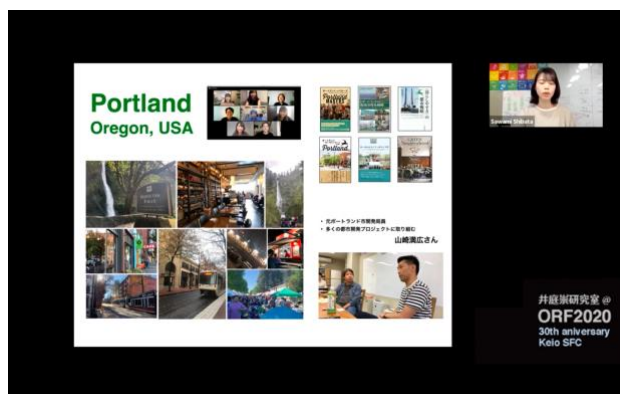


図5：ORFでのプロジェクト紹介動画

今後に関して

これからの活動としては、これまでの後期の活動と同様に、作成してきたパターンランゲージの認知を広めるための活動を行なっていきたい。また、一度製作を追えてからは、発表に注力していたため、パターンの文章の修正があまり行えていない。一つ一つの成果物の魅力や説得性を増すためにも、それぞれの細かい表現などをより良いものへと書き換えていく予定である。

また、それと同時に、今回の研究を一緒に行なって行った山崎満広さんと共に、今回制作したパターンを実際のまちづくりや都市開発で使えるように、具体的な取り入れ方を検討していきたい。現在のところは、一つ一つのパターンをカードの形式でまとめ、どのパターンを取り入れたいのかをワークショップ形式で検討するイメージだが、実験的に実践を行うなどして、より良い形を模索していきたい。